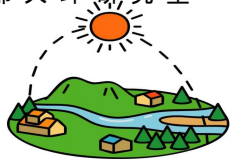


I can't put up with nuclear fuel circle.

# だまっちゃおられん!

核燃だまっちゃおられん津軽の会  
会報 NO 22  
2013年7月20日発行  
連絡先：0172-39-3473  
弘前大学教育学部大坪研究室



## ～6年目を迎えて～

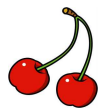
核燃・だまっちゃおられん津軽の会 代表 宮永崇史

2008年2月に発足した当会も今年の総会で6年目に入りました。その直前に再処理工程で長い間達成できなかったガラス固化試験に成功し、アクティブ試験を終了したとのニュースが入ったことは皆さんもご存知かと思えます。本来は2008年5月にアクティブ試験を終了する計画でした。その前になんとか我々市民も再処理の危険性、あるいは不合理性に声をあげようと発足したのがこの会です。その試験終了に6年間を要したわけですが、その間に日本、いや世界の原子力情勢は大きく変わりました。2011年3月の福島第一原発の事故により、日本の多くの人々が原発の危険性に気づくことになりました。さらに、その危険性だけにとどまらず、政策の矛盾、強引な進め方、無制限に膨れ上がるコスト、そして絶望的な核廃棄物処分問題がどんどん明らかになってゆきます。さらによく日本中の人が六ヶ所村の再処理工場のことを知ることとなります。再処理工場からは日常的に放射能が放出されること、原発のような厳重な容器で守られているわけではないこと（福島ではその容器すら破られました）、使用済み燃料プールすらも水素爆発が起こりうること、そして稼働すればプルトニウムがたまり続けること、などが広く知られることとなります。時期を同じくして、そのプルトニウムの利用先である高速増殖炉計画がほぼ不可能であることが明らかになってきます。莫大なコストと危険性を引き換えにプルトニウムを生み出す価値は今やなくなっています。先日の日本原燃川合社長の記者会見でも、高速増殖炉という言葉はありませんでした。本来は苦肉の策であるプルサーマルのためにプルトニウムを回収するという論調に変わりました。

今や、原子力を真っ向から推進する勢力は見当たらないように思えます。彼らの論調を見ると、「原子力推進」ではなく「アンチ脱原発」の発想です。確かに、脱原発あるいは反原発の人が増えて、いろんなところで意思を表明する機会が増えました。したがって、その論理にも幅があるように思えます。科学的にも必ずしも正確ではない、やや言い過ぎるといことも見られます。これは、脱原発を願う人々の幅が広がったことの結果であるわけですが、その「アンチ脱原発」派の人たちは、いちいち細かいことを指摘するようになりました。「脱原発はファシズムだ」という人すらいます。これまで推進派がどのような手法で市民の心を引き裂いてきたかを全く無視しています。一方、日本政府は、私たち市民の声に耳を貸さず、原発再稼働の機をうかがい、再処理方針堅持の方向を明言し、海外には原発を売り込むことに余念がありません。

福島原発事故以来、我々の運動も様変わりしてきたことは確かですが、再処理のアクティブ試験が終了した今、津軽の会の初心に戻り、より正確な、そしてより力のある脱原発、再処理工場稼働に反対する運動を皆さんとともに展開してゆきたいと考えています。

## 今年度の抱負 仁平 将



私個人の抱負ではなくて、会に対する要望・提案です。

この「会」は10以上の団体と個人から構成されています。従って、「会」に対する思い・期待することは様々であると思われま。しかし、「会」の目的である「核燃料サイクル施設」の稼働に反対し、原発のない社会を目指すために何らかの役割を果たしたいという思いは共通のものでありま。それぞれの団体や個人だけでは力が弱く、限界がありますので、この「会」に結集してさらに仲間を増やしなが社会に働きかける事が必要になります。

加盟団体は各々の目的を持って組織されていますので、必ずしも核燃・原発のことが中心ではありません。団体の目指す方向に核燃・原発のない社会があるならば、個々の団体自らが行動する事が基本であると考えます。しかし、独自の行動が困難であったりより効果的な方法を求めるのであれば「会」に結集する事が必要でしょう。我々の運動には「力」が必要です。絶えず組織を大きくし、同時にレベルを上げる努力が常に求められます。より多くの団体・個人の結集を目指して宣伝活動を、調査・学習活動を活発にしま。う。

今年度は可能であれば、2つ目のランチを組織すること、放射線・核燃・原発に関する初歩的な学習をシリーズで企画してはかがで。う。この活動を通して学習会等の講師・助言者を養成してはかがで。うか。

## 小学校副読本「あおもり県の電気」回収を求める申し入れ

核燃・原発問題住民運動青森県連絡会（当会のほかに、立地反対連絡会、下北の原発・核燃を考える会、立地反対上十三地区連絡会、原発いらん！横浜の会の5団体加盟）は7月2日に県に対して、毎年配られている小学校副読本「あおもり県の電気」の回収を申し入れました。原燃からの核燃マネーを使って、「原子力発電はクリーンな電気の作り方」とか「十分な備えがあれば安全」というような内容を教えるとともに、福島原発で放射性物質放出事故の原因は津波によるといったような、誤った認識を子どもたちに与えるものであることから、3年連続の申し入れとなりました。県は、自分たちの主張の正しさのみを答弁するだけで、回収はしないという回答でしたが、青森市では教育委員会が受け取りを拒否していることなどが明らかになっています。

## 子どもたちに核のない未来を実行委員会主催 原発ゼロ弘前パレード

7月28日（日）午後1時半 蓬萊広場集合



## 2013年度役員体制

核燃・だまっちゃおられん津軽の会では2013年5月28日に第6回総会を行いました。本年度の運営委員が下記のように承認されました。

- 代表：宮永 崇史
- 副代表：阿部 東
- 副代表：安藤 晴美
- 副代表：仁平 将
- 運営委員：藤原 竹二（中弘南黒地区労連）
- 運営委員：安藤 房治（日本科学者会議弘前分会）
- 運営委員：未 定（津軽保健生活協同組合）
- 運営委員：深作 拓郎（弘前大学職員組合）
- 運営委員：木村 匡宏（株）ファルマ
- 運営委員：黒沼 利三（市民が主人公のみんなの会）
- 運営委員：小西 勇一（共産党津軽地区委員会）
- 運営委員：坂本恵津子（新婦人弘前支部）
- 運営委員：須藤 宏（津軽農民組合）
- 運営委員：二川原 一（中弘南黒年金者組合）
- 運営委員：未 定（コープあおもり弘前地域）
- 運営委員：山本 陽子（健生病院労働組合）
- 運営委員：大坪 正一（事務局長）
- 運営委員：中澤 博子（事務局次長）
- 運営委員：高松 利昌（事務局員）
- 運営委員：加藤小百合（事務局員）
- 会計監査：工藤 敏子

## 事務局員募集中！ 会費納入のお願い

現在事務局員を募集中！会員の方でやってみたいと思われる方、ぜひ事務局までご連絡ください！

◎会費納入をお願いします。振込用紙をお使いください。